



蔵原隆浩市長（右）に目録とペーパーナイフを手渡す熊田祐士社長＝玉名市

「同田貫ナイフ」受注好調 メーカー、玉名市に寄付

玉名市ゆかりの刀剣「同田貫」をモチーフに制作されたペーパーナイフの購入型クラウドファンディング（CF）で、879万3920円が集まった。制作した刃物メーカーが20日、寄付金の一部を同市に寄付した。

同田貫は実戦用の剛刀で、加藤清正が重用。岐阜県の刃物メーカー「ニッケン刃物」が、玉名市立歴史博物館の監修でステンレス製のペーパーナイフを制作した。同社は、新型コロナウイルスの影響により観光地で減った売り上げを

補う目的でCFを実施した。

同社によると、CFには9月10日～10月23日に1549人が参加。3700円から受け付け、最高額に設定した1万2千円は200口だった。総額で、目標だった70万円を大きく上回った。

同社の熊田祐士社長（36）がこの日、玉名市役所を訪れ、蔵原隆浩市長に同館の運営資金の支援として約1割の88万円を贈呈。熊田社長は「予想以上の反響で驚いた。会社の認知度も高まった」と感謝した。

（熊川果穂）